

言語文化研究科 言語文化専攻〔修士課程〕

ディプロマ・ポリシー(DP)	カリキュラム・ポリシー(CP)
<p>言語文化研究科では、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、言語・文化・文学・コミュニケーション及び翻訳の分野における研究能力と高度の専門性を要する職業等に必要能力を養う観点から、各専攻・コース所定の要件を備える者に修士の学位を授与する。</p> <p>◆言語文化専攻〔修士課程〕</p> <p>(言語文化コース)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語文化に関する総合的体系的学識を修得している。 2. 言語を媒介にした様々な文化的社会的事象を学際的に比較分析する能力を身につけている。 3. 日本語と日本語教育に関する高度な専門知識を身につけている。 <p>(ビジネス日本語コース)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「高度外国人材」にふさわしい、実践的かつ高度な日本語のビジネス・コミュニケーション能力を身につけている。 2. 日本の企業活動・企業経営、ビジネス文化に関する知識を身につけている。 3. 高度職業人として必要な資料の収集・解釈能力や問題発見解決能力を身につけている。 4. 特定課題研究で養った実践的なリサーチ力を身につけている。 	<p>言語文化研究科では、言語文化に関する総合的・体系的な知識・能力を修得するとともに、教育・研究者や高度の専門性を有する職業人として活躍するために必要な実践的な能力を修得する。</p> <p>◆言語文化専攻〔修士課程〕</p> <p>言語文化専攻では、教育職・研究職や、国際交流・多文化共生に関わる職、国際ビジネスに携わる職等で活躍する人材を養成する観点から、各コースにおいて、体系的な知識と実践的な問題解決能力を養成する。</p> <p>(言語文化コース)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語・文化・文学・コミュニケーション及び翻訳などの分野の専門家を育成する。 2. 「共通科目群」を通じて、履修者は、学術研究の基本的な考え方と作法を学び、また、日本語・日本語教育および異文化コミュニケーション双方に関わる言語文化研究の内容・方法に幅広く触れ、そのうえで領域横断的な視点から主体的に研究を遂行するために必要な知識を得る。 3. 「日本語教育科目群」並びに「異文化コミュニケーション科目群」を配置し、履修者は、それぞれの専門に関わる科目群を中心に履修しつつ、研究テーマに応じた主体的なリサーチと発表を基本的な学習方法とする。 4. 修士論文の研究指導を通じて専門家としての研究能力を醸成する。 <p>(ビジネス日本語コース)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生を対象に、日本企業・日系企業での就業やキャリアパスを想定して配置した、「ビジネス日本語科目群」と「ビジネス科目群」の授業科目を通じて、高度なビジネス日本語力を養い、ビジネスに関する知識を学ぶ。 2. 視聴覚、ICTなどを活用し、教室外とのインターアクションを豊富に取り入れた体験型・実践型の授業を中心に「高度外国人材」に必要な社会人基礎力を養成する。 3. 学修の成果として特定課題研究を課し、少人数でのゼミや演習を通じて、就業後に即戦力となるような、資料の収集・解釈能力や問題発見・解決能力を醸成する。